

書画関係資料について

—和漢書貴重図書目録の周辺—

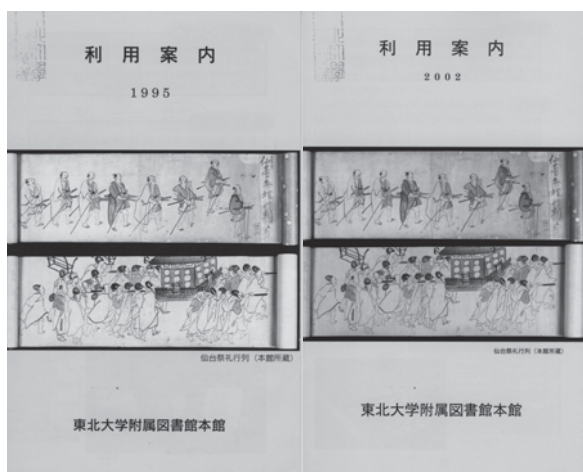
大原 理恵

はじめに

本稿は、前稿¹に引き続き、平成17年度版『東北大学附属図書館本館所蔵 貴重図書目録 和漢書篇』の補足として、目録の記述方針・昭和11年版及び昭和36年度版『別置本目録』との相違・昭和11年頃のその資料の評価等について、図書館員が今後貴重図書利用方針の検討や貴重図書追加指定または再検討等の際に参考とする場合を想定して記述する。その方針については、適宜前稿等の参照をお願いしたい。

平成17年度版目録は貴重図書を大きく「古写本・古刊本」「原本稿本名家書入手沢本」「書画画図」「稀本」に分けている。今回は「書画画図」のうち前回の「地図」と関連するところを含む「書畫」「畫圖繪卷物」を対象とする。

「書画画図」に分類されている資料は、貴重図書のなかでも、彩色資料が多く見応えがあるため、展示・広報等にもくりかえし利用されている。



【写真1】『仙臺祭禮行列』を表紙に用いた『利用案内』(1995年版・2002年版 東北大学史料館蔵)

例えば、『仙臺祭禮行列』(延4-1151)などはその代表的なもので、仙台ゆかりの資料でもあり、附属図書館の利用案内の表紙を飾っていたこともあるから、この資料を記憶に留めている東北大学関係者は少なくないはずである。『臨顧愷之女史箴卷』(延4-1505)も、本学概要紹介などによく掲載されている。

電子版「貴重書展示室」²で公開された(写真は一部のみ)110点のうち、14点が「書畫」「畫圖繪卷物」に分類した資料である。「貴重書展示室」の分類に従って示すと、

【歴史・地理】陸奥州驛路圖(伊8-516)【美術・工芸・技芸】無題卷物(延4-1504)・松島洲嶼眞圖(延4-1503)・臨顧愷之女史箴圖卷(延4-1505)・北京風俗圖譜(延-1508)・仙臺祭禮行列(延4-1151)・鷹野繪卷(伊6-564)【法律・政治・経済】五節舞姫(伊5-417)・鯨一件之卷(伊3-333)・御用鑄錢場圖繪(延4-1502)【理学】北蝦夷草木譜(伊6-552)羣分品彙(伊7-337)【医学】解剖存眞圖(伊7-942)【工学・兵学】佐渡鑛山金銀採製全圖(伊8-505)である。

その一方で、貴重図書とした理由については明確ではないものも少なくない。旧蔵者の狩野亨吉は書画鑑定を行っていたので、その方面の参考資料にはしかるべきものが含まれているのではないかという期待もあったであろう。また、この分類には解剖図・鉦山図等が含まれており、近世の自然科学に対する狩野亨吉の見識への期待も考えられる。あるいは、識語等に含まれる名家の名に注目したのではないかとと思われるものもあるが、推測の域を出ない。

図書館の諸制度は、書籍を中心としているので、この分類に含まれる資料には必ずしも適したものではないことにも注意し、管理や閲覧について計画する必要があるであろう。

1 「地図について：和漢書貴重図書目録の周辺」大原理恵『東北大学附属図書館調査研究室年報』5 東北大学附属図書館 2018年3月
2 「貴重書画像を電子的に公開～東北大学附属図書館所蔵「貴重書展示室」～」『木這子 東北大学附属図書館報』22巻3号(通巻80号)平成9年12月 13頁

1. 「書畫」「書畫繪卷物」の目録構成と記述

まず、昭和11年版及び昭和36年度版『別置本目録』と平成17年度版『貴重図書目録』の構成上の相違点について述べる。

「書画面図」のうちの「書畫」「畫圖繪卷物」は、昭和11年版・昭和36年度版『別置本目録』における「畫圖 書畫及(ビ)繪卷物 繪本 地圖」のうち「畫圖」「書畫及(ビ)繪卷物」に相当する分類である。ただし、「畫圖」「書畫及(ビ)繪卷物」に含まれていた錦絵類は別に「錦繪」の分類を設けてそちらに移した。『別置本目録』では、風景を描いた錦絵は「畫圖」、人物を描いた錦絵は「書畫及(ビ)繪卷物」に分類されていたのを、『貴重図書目録』では「錦繪」として一つにまとめている。

また、他の分類にあった資料数点を「書畫」「畫圖繪卷物」の分類に移し、内容の類似するものをまとめて配列するようにした。

他の分類から移した資料は次の通りである。

字林長歌 伊 1-214

← (狩) 原本 稿本—儒家 釋家

管城說郭 延 2-1329

← (他) 原本 稿本—諸家

追遠會式 伊 3-335

← (狩) 原本 稿本—諸家

金石圖 延 4-1902

← (他) 稀本—諸種刊本

歌體約言 伊 11-434

← (狩) 名家書入及ビ手澤本

文雅典寶 伊 3-332

← (狩) 原本 稿本—諸家

近世畫史 伊 4-366

← (狩) 原本 稿本—諸家

五節舞姫 伊 5-417

← (狩) 名家書入及ビ手澤本

東大寺御寶物撮本張込帖 延 3-1341

← (他) 原本 稿本—諸家

小川嶋鯨鯢合戦 伊 4-365

← (狩) 原本 稿本—諸家

鯨一件之巻 伊 3-333

← (狩) 原本 稿本—諸家

羣分品彙 伊 7-337

← (狩) 原本 稿本—諸家

解剖存眞圖 伊 7-942

← (他) 稀本—諸種寫本

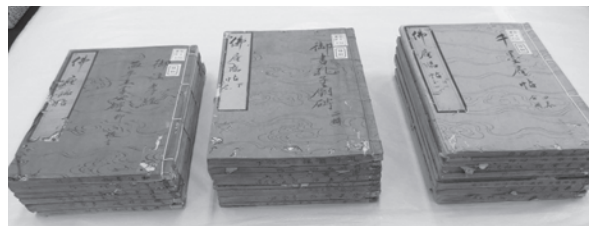
北海山川圖 延 3-1337

← (他) 原本 稿本—諸家

これらを移転したのは、それまでの目録では類似する資料が、一方では画面に一方では別の分類にあるといった点が見られたため、書画を中心とする資料、または書画についての著述などをこの分類にまとめることによって、閲覧利用あるいは図書館における電子化・展示等事業の際の利便性を高めることを企図したものである。

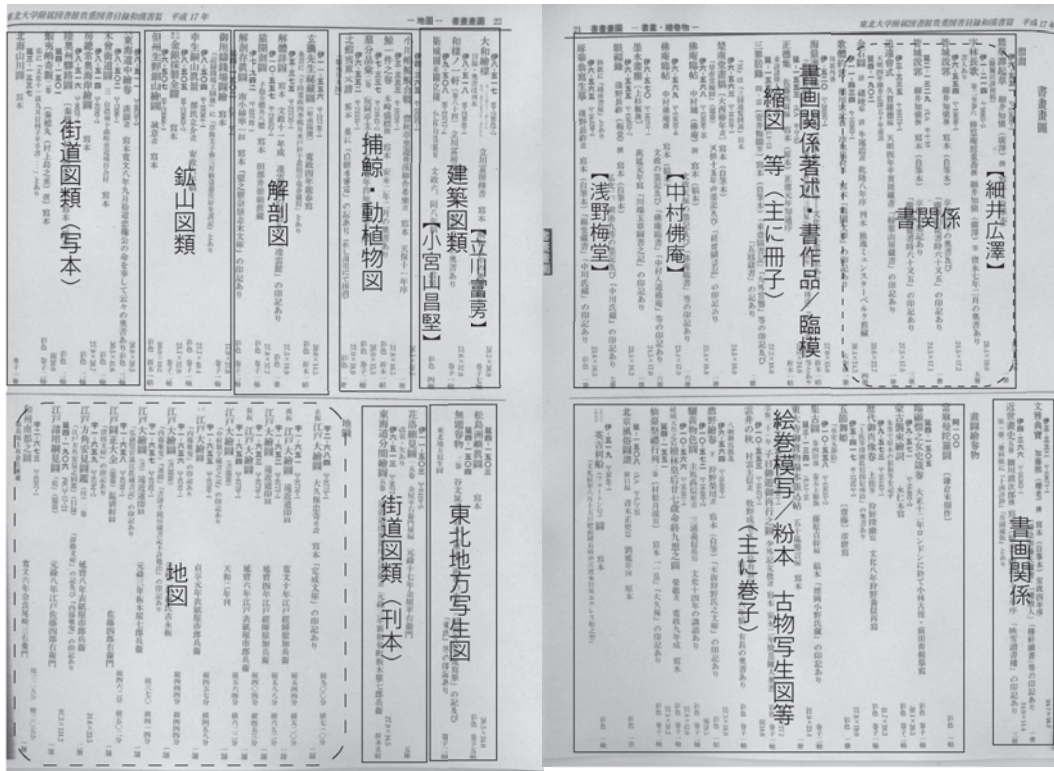
目録における資料の配列について記す。『別置本目録』「畫圖」「書畫及(ビ)繪卷物」は他の分類と同様、資料名の五十音順に配列しているが、今回それを大幅に変更し、内容の類似するものを集めるようにした。

「書畫」においては前半に主として「書」関連、特に最初に細井広沢(知慎)関係の資料を集めている。後半には絵画関係または書画に双方に関連する著述・縮図類を配した。そのなかでも、中村佛庵・浅野梅堂(長祚)のものは、目録上の点数では目立たないが、実際の冊数は相当な分量がある。



【写真2】『佛庵臨帖』

本格的な絵画・絵巻類は、次の「畫圖繪卷物」に分類している。とはいえその多くは参考資料として作成された簡略な写しや粉本類で、前半は、内容的に古典的なものが多く、有職故実・風俗・歴史的事件の記録等を集めた。後半は、建築・捕鯨・植物図・解剖図・鉱山図・街道図等である。構成を【図1】に示す。



【図1】平成17年度『東北大学附属図書館本館所蔵 貴重図書目録 和漢書篇』21-22頁

昭和11年『和漢書別置本目録』以降の貴重図書（別置本）の追加状況は次の通りである。追加についての記録があるものはこれを注記する。

○東大寺御寶物搦本張込帖（延3-1341）（戊A1-16）

「別置本目録追加」³（謄写版）昭和20年1月27日

※昭和36年度版『別置本目録』収載 分類「原本」

○臨顧愷之女史箴圖卷（延4-1505）

昭和36年度版『別置本目録』

○當麻曼荼羅圖（阿-100）

「貴重（別置）本増加図書目録」⁴昭和51年11月30日 現在（手書）

○北京風俗圖譜（延-1508）（戊A 5-5, 2-35）

「貴重（別置）本増加図書目録」昭和51年11月30日現在（手書）

○「文化五年長崎渡来」英吉利船圖（フェートン号）

（伊-519）（3-5646-1）

「貴重（別置）本増加図書目録」昭和51年11月30日 現在（手書）

○海量書画帖（伊-520）（5-29207-1）

目録編纂時別置・貴重図書指定

○正徳集（延-1553）（戊A 6-5-53）

目録編纂時別置・貴重図書指定

○三界居録（延-1554）（戊A 5-5, 1-13）

目録編纂時別置・貴重図書指定

『臨顧愷之女史箴圖卷』（延4-1505）は、戦時中は空襲に備えて国宝とともに図書館内地下書庫で金庫に保管されており⁵、指定前に事実上貴重図書扱いられていたといえる。なお、絹地補修識別図も作成されたが、戦災で失われた。⁶

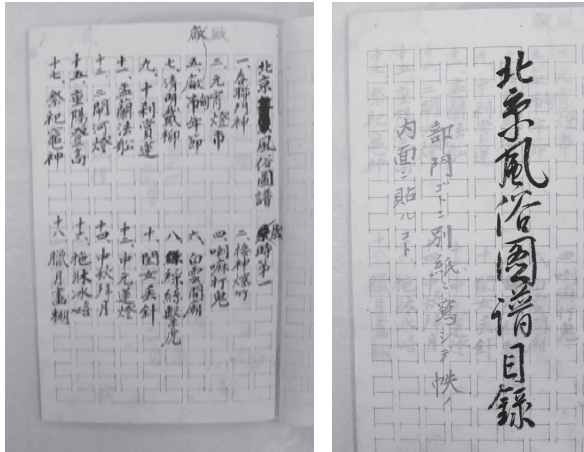
『北京風俗圖譜』（延-1508）は、『北京風俗図譜』1・2内田道夫編〔青木正児原編〕（東洋文庫23・30）平凡社1964年7月・1964年11月や『北京風俗図説』内田道夫図説 青木正児原編 平凡社1986年 が刊行され、附属図書館の貴重図書のなかでも一般に親しまれている資料といえる。

3 「東北大学附属図書館和漢書貴重図書目録の刊行について（二）—昭和36年版『東北大学附属図書館別置本目録 増訂稿』刊行まで—」大原理恵 『東北大学史料館紀要：9 東北大学史料館 2014年3月 78頁参照

4 「東北大学附属図書館和漢書貴重図書目録の刊行について（三）—昭和63年 貴重図書選定委員会設置まで—」大原理恵 『東北大学史料館紀要10 東北大学史料館 2015年3月 54頁参照

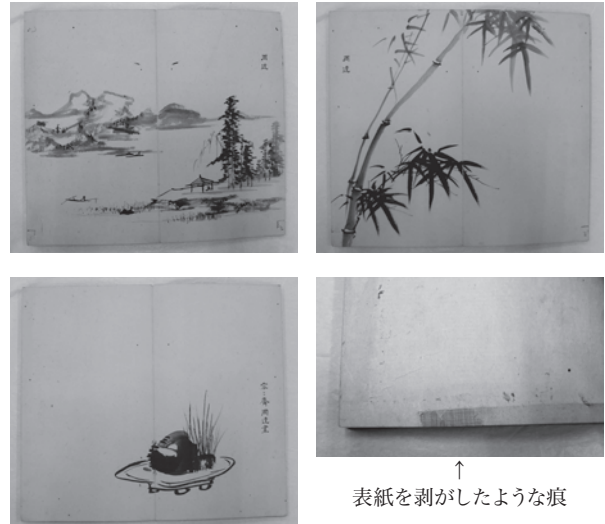
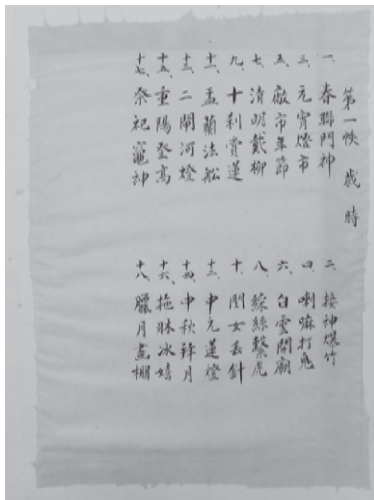
5 東北大学附属図書館和漢書貴重図書目録の刊行について（二）」82頁参照

6 『東北大学五十年史』下 1277頁



【写真3】

『北京風俗圖譜目錄』(冊子)表紙には朱で「部門ゴトニ別紙ニ寫シテ帙ノ内面ニ貼ルコト」との指示があり、各帙には左のような目録が貼られている。



【写真4】

↑
表紙を剥がしたような痕

『正徳集』(延-1553 戊A 6-5-53) 佐藤馬耳編 については、「東北大学附属図書館蔵未刊資料「正徳集」の紹介—享保期俳人の奥州旅行について—」新田孝子(『図書館学研究報告』2 昭44年12月)に詳細な報告がある。この資料は俳諧資料でもあるが、旧分類古典では「戊A 6-5 法帖 墨跡」に分類されており、『貴重図書目録』においても「書畫」の分類に入れた。受入は昭和12年但木貞雄(古書肆)納入である。桑折本陣佐藤家来訪俳人句文集。

「日本の芸術に於ける秘伝の意義」小宮豊隆⁹には、小宮が仙台の古書肆から入手した馬耳宛の俳諧誓紙(寛延元年)が紹介されている。これと同時に入手した馬耳宛の伝授の資料は正徳の年号があるとしているが、小宮の文脈ではあまり芳しい話ではない。

『三界居録』(延-1554)は菅井梅関筆。「五鳳蔵書」の墨書があり、梅関の弟子・楨五鳳の旧蔵書で、仙台市博物館所蔵資料と一連のものであったらしい¹⁰。東北大学附属図書館で所蔵するのは題簽に「問」「雲」と記された二冊で、「問」は絵画の縮図類、「雲」は『三国通覧図説』(林子平)写本である【写真5】。昭29年受入但木貞雄(古書肆)納入。

『海量書画帖』(伊-520)は、「18世紀末における図書館運動者海量について」矢島玄亮⁷に紹介されている。

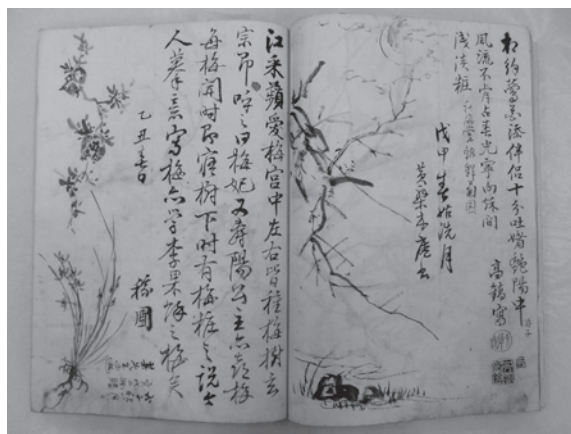
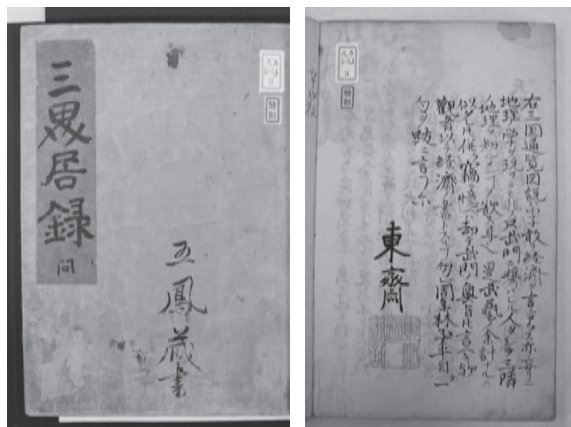
「海量法師」森銑三⁸には『雲烟瑣談』(二宮孤松)の記述が引用され、「近日僧海量の書畫帖二冊を獲たり。畫は山水墨竹及び盆卉各一種にして、其の他は詩と歌とを書きたるものなり。」とあるが、記述がこの資料と完全には一致せず、検討を要する。狩野文庫由来の『海量書画帖』(伊-520)は一帖で画は【写真4】の三図がある。また、改装されたものらしく、裏面に表紙を一度剥がしたような痕【写真4】が見られる。

7 「愚得録(五)」『東北地区大学図書館協議会誌』9 昭和34年10月 6頁

8 森銑三著作集 2 251頁

9 『芭蕉・世阿彌・秘傳・勘』小宮豊隆 白晝書院 昭和22年

10 『孤高の画人 菅井梅関—没後百五十年記念—』仙台市博物館 平成6年 47頁・131頁



【写真5】

以下、その他の資料の記述等について、概ね平成17年度版目録の配列順に記す。

【書畫】

先に記したように、最初に細井広沢（知慎）関連の資料を集めてある。『鷺群譚起草（観鷺百譚初稿）』（伊6-551）・『字林長歌』（伊1-214）・『管城説郭』（伊6-554）・『管城説郭』（延2-1329 戊A 6-1-10）・『追遠會式』（伊3-335）である。このうち、『管城説郭』（延2-1329）のみは狩野文庫由来ではない。昭6年受入 吉田久兵衛（古書肆）納入。三村竹清によると、狩野亨吉は細井広沢のものをまとめて入手したらしい。

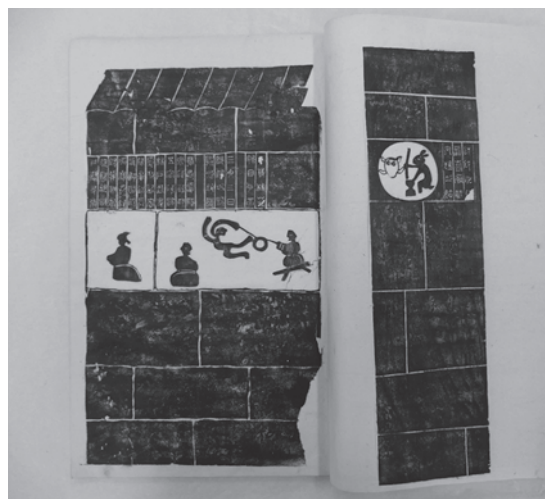
其後、明治の末かに狩野亨吉先生の所へ広沢のものが沢山はひつたと噂に聞いてみた。大正二年の九月八日、文行堂主人が蔵書印譜の材料にとて狩野先生からいろ／＼本を借りて来てくれた、其中に広沢のものが二つあった。一つは篆体異同歌の草稿で美濃紙なのを其紙の腹を截つて裏を又観鷺百譚などの草稿にしたらしく、観鷺百譚にしても、（中略・引用）など、流布の刊本とは多少

違つてゐる。

「近世能書伝」『三村竹清集』4（日本書誌学大系 23-4）青裳堂書店 昭和58年5月 7頁

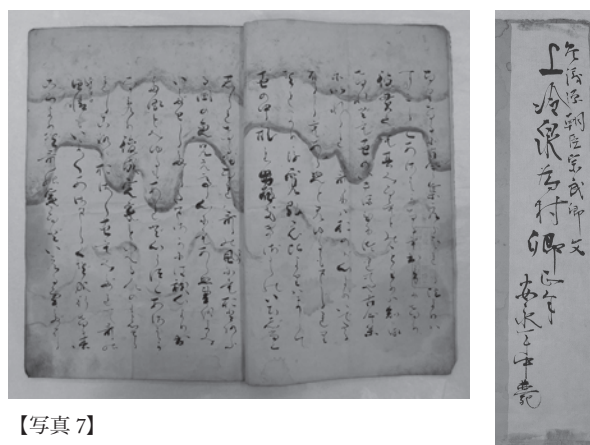
狩野文庫には、他に『揚子法言』（2-25523-1・細井広沢写・特別本）等がある。また、狩野が細井に注目していたのは、書ばかりではなく、測量の方面¹¹もあつたと思われ、『測量祕言』（7-21191-1・写本 渡邊軍藏撰細井知慎廣澤抄）は狩野亨吉寫本である。

金石圖（延11-434）【写真6】は、ミュンスターベルク旧蔵書¹²。



【写真6】

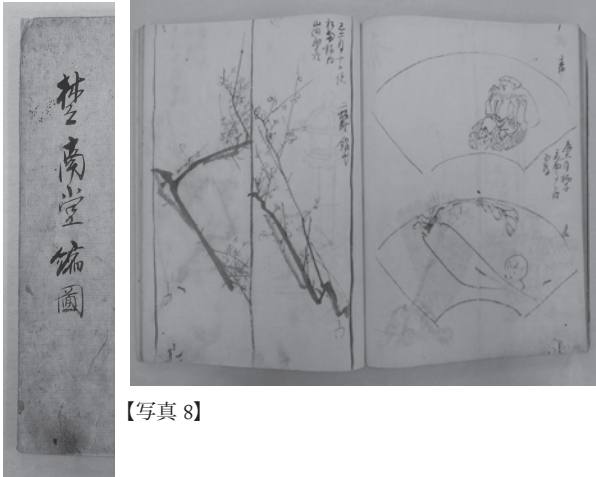
歌體約言（伊11-434）【写真7】は内曇料紙の大ぶりの冊子。冷泉為村筆であることが別置の理由と考えられるので、書画に分類した。



【写真7】

『楚南堂畫稿』（伊6-565）大西椿年画は「楚南堂縮圖」（内表紙）とあるように、縮図類である。【写真8】

11 『明治前 日本数学史』第五卷 日本学士院編 岩波書店 1960年 第13章第8節 測量術 482頁
 12 ミュンスターベルクについては『東北大学五十年史』下 1732頁・『国境を越えた日本美術史—ジャポニスムからジャポノロジー—への交流誌 1880-1920』南明日香 藤原書店 2015年 参照



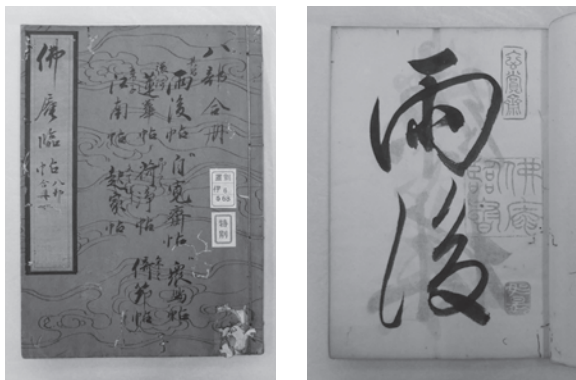
【写真8】

『佛庵臨帖』(伊6-568)【写真2】【写真9】は受入時期が異なるのみで、一連の資料と推定される。狩野文庫にはさらに『佛庵雑記』(1-25065-4・特別本)〔中村佛庵〕写本(原本)を所蔵している。中村佛庵の営為を「中村佛庵の文事(一)―柳原邸の文物集散と交遊―」ロバート・キャンベル は次のように表現する。

夥しい古物を入手次第、文壇の雄たちに展覧させ、又彼らの手による詩歌や記文や図画などを集めては、言わば文字による副次のコレクションを創るのに佛庵はいつも孜孜としていた。

『江戸小説と漢文学』(和漢比較文学叢書 和漢比較文学会編 第17巻) 汲古書院 平成5年 93頁

「書」の方面については、横倉佳男氏の論考¹³があり、「書家としての中村佛庵 二 学書とその門流」では、『佛庵臨帖』を対象とし、内容一覧も示されている。

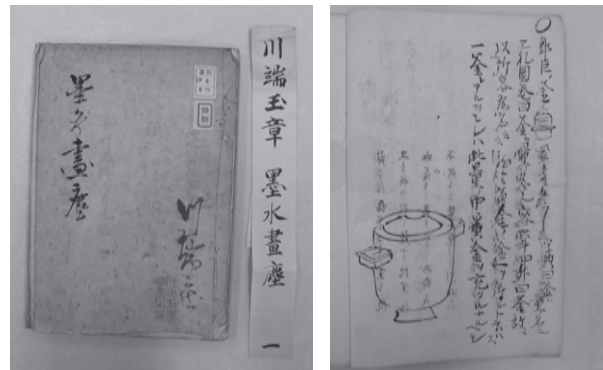


【写真9】

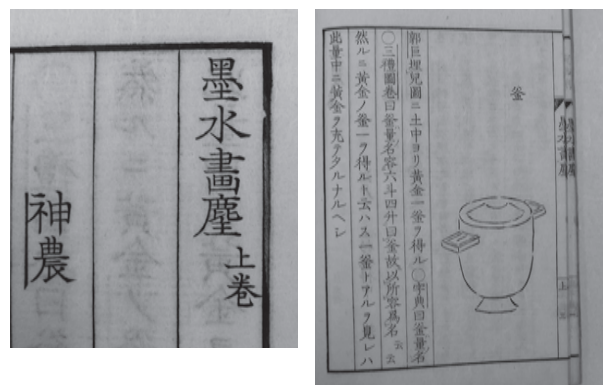
佛庵がこの「臨帖」をいかに楽しみ、夢中になりながら臨書していたかはその落款の端々に見てとることができる。(中略) 佛庵の晩年が臨書三昧の日々に彩られていたことがわかってう。

『書家としての中村佛庵 二 学書とその門流』横倉佳男『若木書法』3 2004年3月 p43

『墨水畫塵』(伊6-570)は、『別置本目録』では、川端玉章撰の自筆本としていた。俳諧書の紙背に書かれ一部抹消するなど、稿本らしく見える【写真10】のであるが、基本的には『墨水畫塵(シュ)』(上杉樞)の写と判断し、『貴重図書目録』では「〔上杉樞撰〕」とした。ただし書名は『墨水畫塵(ジン)』としている。項目の順序は狩野文庫の版本(5-16353-2 天保三年 京都 小川源兵衛)と異なるところがある。稿本というのは誤解であったとしても、この資料の意味については検討の余地はあるであろう。なお、この資料は、大正二年東北帝国大学の開学記念展示品¹⁴の一つである¹⁵。



『墨水畫塵』(伊6-570)

『墨水畫塵』(上杉樞)
狩野文庫 5-16353-2 天保三年 京都 小川源兵衛
【写真10】

- 13 「書家としての中村佛庵 一 隷書碑を中心に」横倉佳男『若木書法』2 若木書法會(國學院大學文学部書道研究室)2003年3月・「書家としての中村佛庵 二 学書とその門流」横倉佳男『若木書法』3 2004年3月・『佛庵硯譜』について:幻の鳴門硯」横倉佳男『若木書法』12 2013年2月
- 14 「東北大学附属図書館和漢書貴重図書目録の刊行について(一)―昭和11年版『和漢書別置本目録 未定稿』刊行とその周辺―」大原理恵『東北大学史料館紀要』8 2013年3月 東北大学史料館 72-74頁
- 15 川端玉章のかつての評価については「川端玉章の研究(一)」塩谷純『美術研究』392 2007年9月 参照。

浅野梅堂『眼福録』(伊6-555)については「来舶画人研究—蔡簡・謝時中・王古山—」鶴田武良(『美術研究』312 1980年2月)に紹介・考察があり、特に注記には各冊についての記述がある。『琢華翁寫生摹』(伊6-565)も浅野梅堂筆とされる彩色の写生図である。浅野梅堂は画を椿椿山(琢華堂)に学び、国会図書館には『椿山縮図』(浅野梅堂写) <831-89>などが所蔵されているので、これも椿山との関係を示すものと推測される。



【写真11】

森潤三郎が「漱芳閣主浅野備前守長祚」を『日本古書通信』89号(昭和12年11月)¹⁶に発表している。



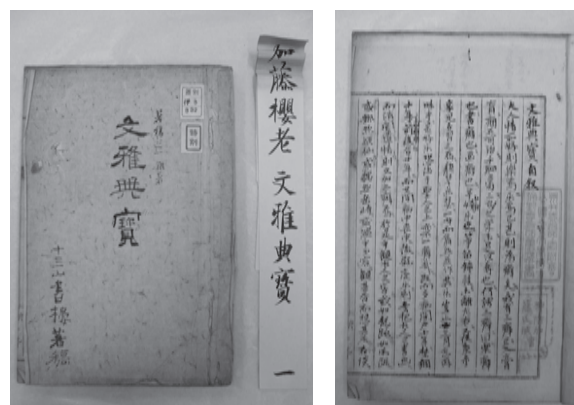
【写真12】『眼福録』(伊6-555)

『眼福録』(伊6-555)は、東北帝国大学の開学記念で展示。添えられた短冊には、「梅堂ハ内匠頭ノ裔 安政年間皇居御造営奉行タリ」とある。

『文雅典寶』(伊3-332)・『近世畫史』(伊4-366)は「原本 稿本」の分類より内容から「書畫」に移した。

『文雅典寶』【写真13】も東北帝国大学の開学記念で展示された。筆者加藤熙桜老は、儒学者で幕末の志士との交渉などで知られ、そうした著名人の稿本として

別置されたものと思われるが、本資料は「自叙」に「我有三癖、(中略)何謂三癖、曰、楽癖也、書癖也、画癖也、」とあって、文雅の方面の書である¹⁷。



【写真13】『文雅典寶』(伊3-332)表紙及び「自叙」

『近世畫史』(伊4-366)は、『近世畫史』(明治24年刊)の稿本と推定される。狩野文庫には明治24年刊本(5-29854-5)も所蔵する。

【畫圖・繪卷】

『五節舞姫』(伊5-417)【写真14】には、参考資料名として「承安五節絵」を添えた。東北帝国大学開学記念で展示。本資料については、『源氏物語』の源泉と継承 川島絹江 笠間書院 平成21年 第四章第二節『承安五節絵』の流伝 に紹介がある。なお、同川島氏著書及び「新出の東北大学図書館本『承安五節絵巻』模本について」山本陽子『明星大学研究紀要 日本文化学部・言語文化学科』11 2003年3月に紹介されているのは、『五節淵醉圖』(卷子299)である。



【写真14】

『子日御遊御再行之圖』(伊10-367)には、「安永二年駿岳陳人奥書」の記述を添えた。

16 『考証学論攷』森潤三郎(日本書誌学大系9)青裳堂書店 昭和54年

17 桜老と「楽」については、「七五調の幕末・明治—今様評価の変遷と加藤桜老編『古今様集』」青山英正(『幕末明治 移行期の思想と文化』前田雅之・青山英正・上原麻有子編 勉誠出版 2016年)に言及がある。

『雲井の秋』(伊10-553)には、内容の説明として八朔御馬献進の図であることを書き添えた。



【写真15】『雲井の秋』(東北大学デジタルコレクション 狩野文庫データベース による)

※「八朔御馬献上の説」黒川真頼(『風俗画報』9 明治22年10月)挿画に近い場面

『驪黄物色圖』(伊10-566)も馬関係の資料であるが、たとえば、『稱徳館所蔵馬の古書文献目録』中村七三編著 称徳館1980年 には「驪黄物色圖説」に次のような説明がある。

『百馬圖名』は、従来区々に使われ混乱していた馬の毛色用漢字の訓義・和訓を統一すべく、正保年間將軍家光の命により、御馬役黒澤定幸(左助)が幕府の儒官林羅山(道春)の協力を得て考証し、繪を狩野尚信が画いた一種の毛色圖鑑である。本書は、この『百馬圖名』に文献的考証解説したもので、多くの典籍を引用した労作であって、漢文体で記述されている。 107頁

本資料にも、参考資料名として「百馬圖」等を示すべきであったかもしれない。

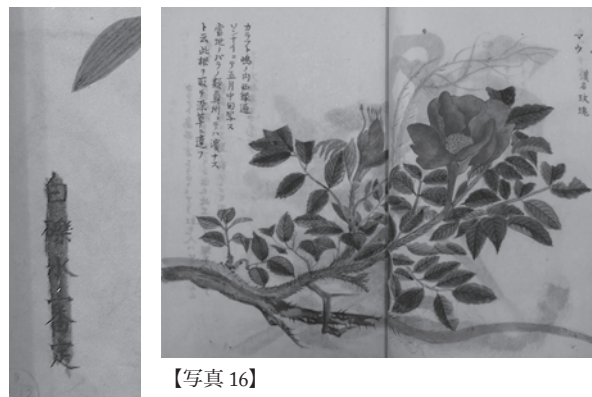
『檀林皇后廿七歳命終九想之圖』(伊10-566)は解剖図との関連を考えることもできる。

『九相図資料集成 死体の美術と文学』山本聡美・西山美香編 岩田書院2009年 所収「檀林皇后九相説話と九相図一禅の女人開悟譚として」西山美香及び『九相図をよむ 朽ちてゆく死体の美術史』山本聡美(角川選書556) KADOKAWA 平成27年(213頁-)に本資料が取上げられ

ている。

『仙臺祭禮行列』(延4-1551)の「〔村松月溪〕寫」の記述は昭和11年版にはない。この記述の追加にあたって矢島玄亮氏が依拠した資料は、遺憾であるが筆者は未見である。

『北蝦夷草木譜』(伊6-552)は彩色の美しい植物図であるが、図書館員を悩ませてきた資料でもある。矢島玄亮氏は「北蝦夷草木譜の白礫水審定とある白は白井光太郎氏のこと。礫水は白井氏の住所、小石川のことであると木村有香〔東北大学理学部教授〕先生から教えられた。用紙、墨蹟共新しい感するのはその為であろう。」¹⁸とする。(ただし「白礫水審定」の文字は薄墨で抹消されている。【写真16】)このため古典として扱われなかったのか、狩野文庫本だがマイクロフィルム未収録である。また、【写真16】の花の図が、国立国会図書館蔵の『蝦夷草木図』¹⁹に似ているとの指摘があり、参考名称として「蝦夷草木図」を添え『別置本目録』で「稿本」としていたのを「寫本」に改めたが、この資料の性質については検討が必要²⁰であろう。



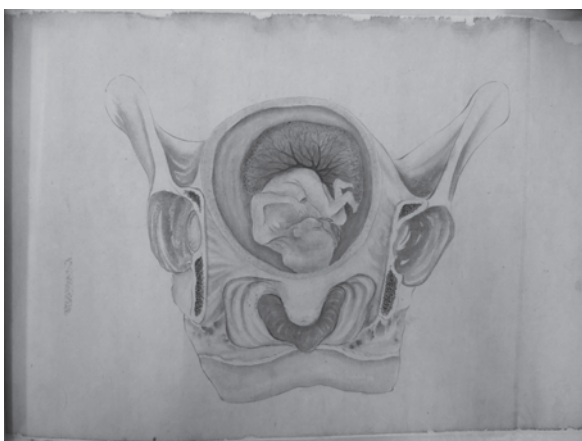
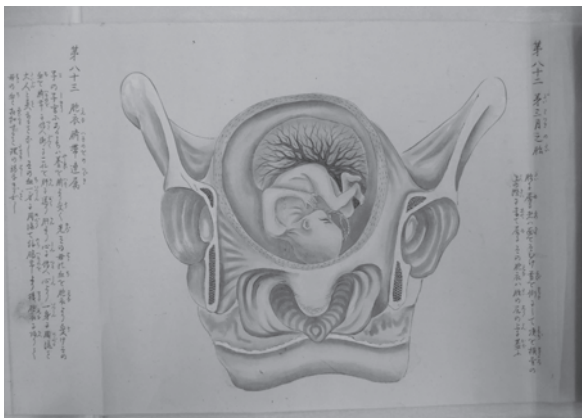
【写真16】

『解剖存眞圖』(延4-1502)については、原本とされる慶應義塾大学所蔵本が良く知られている。『猿解剖圖』(伊10-557)は、後半は猿の解剖図であるが、前半は『解剖存眞圖』の子宮・胎児の図と同じである。【写真17】貴重図書の解剖図4点はすべて画像を電子的に公開しているが、江戸時代のこととはいえある人物(名前が記されている場合もある)の遺体の写生図であり、その倫理性については意識すべきであろう。

18 「狩野文庫について—在館33年の思い出—」矢島玄亮 『MAUL 宮城県大学図書館協会会報』27 1966年4月 10頁

19 国立国会図書館電子展示「描かれた動物・植物 江戸時代の博物誌」<http://www.ndl.go.jp/nature/cha1/index2.html> 「第一章・II」 ※平成元年国会図書館開催「自然を見る眼—博物誌の東西交流—」に展示されたもの。

20 「『蝦夷草木図』写本の比較」林昇太郎・水島未記・手塚薫『北海道開拓記念館研究紀要』29 2001年3月

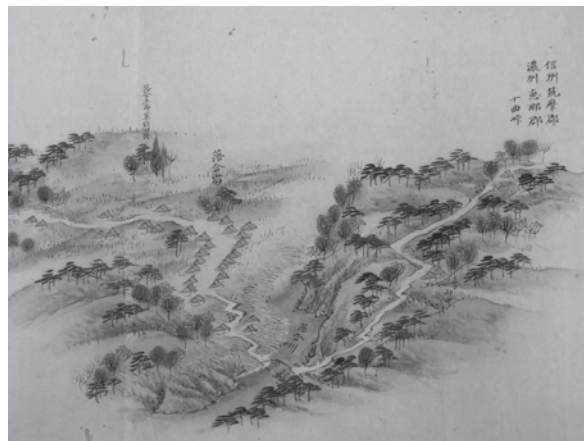


【写真17】上 『解剖存真圖』(延 4-1502)
下 『猿解剖圖』(伊 10-557)

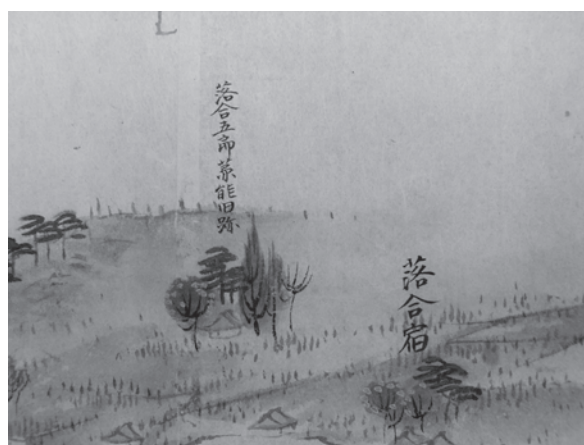
『御用鑄錢場圖繪』(延 4-1502) については、「[原本]」の記述を「寫本」とした。注 18 文献の矢島氏の指摘を参照。

『陸奥州驛路圖』(伊 8-516・3-9027-2) 及び『蝦夷嶋奇觀』(延 4-1501) には、通説に従い「[秦憶丸(村上島の丞)撰]」を補った。『陸奥州驛路圖』(伊 8-516) は、『江戸時代図誌 7 奥州道一』筑摩書房 昭和52年「(図版)5」に写真が紹介されている。折本を卷子に仕立てたものらしく、拡げると波打ってやや扱いに注意を要する。『蝦夷嶋奇觀』については、別置理由の一つであったと思われる、箱の「林子平」云々の墨書について注記を加えた。なお、この箱は震災で破損したため補修²¹した。

『木曾街道圖』(伊 8-502) 【写真18】は、『別置本目録』には「刊本」とあるが、寫本とした。



『木曾街道圖』(伊 8-502) 十曲峠付近



【写真18】同上 部分拡大 落合五郎の旧跡

『花洛細見圖』は改装本。旧蔵者が欠落について調査した墨書がある。

『東海道分間繪圖』について『稀籍考』河原萬吉 栗田書店 昭和11年 には、「画師師宣の創意が加はつて居つて、(中略)宛然一の特殊なる風俗画をなして居る」とある。『東海道分間繪圖』(伊 6-513) は、眺めて心楽しい絵図であるが、改修・彩色の有無で諸本が分かれ、『東海道名所記 東海道分間繪図』富士昭雄校訂代表(叢書江戸文庫 50) 国書刊行会 2002年 解題(富士昭雄)では、「元禄三年改修本」に分類し「伝本多し」(414頁)とする。なお、漱石文庫にも『東海道分間繪図』(漱 1512) がある²²。

21 「和漢書貴重図書古典籍の修復について：平成16年度～平成24年度の概観」大原理恵 『東北大学附属図書館調査研究室年報』2 東北大学附属図書館 2014年2月
22 「漱石文庫和漢書の保存状況について」大原理恵 東北大学附属図書館調査研究室年報 4 2017年3月 32頁

2. 複製・電子化資料について

狩野文庫由来の資料については一部を除いてマイクロフィルムが作成されている。また、狩野文庫マイクロ化事業の際に、絵巻等についてはカラー画像が作成され『東北大学デジタルコレクション 狩野文庫データベース』で公開されている。ただ、この画像は美術としての鑑賞や細部の学術的検討には十分なものとはいえず、改善が望まれている。全体の画像が公開されているのは、彩色の絵巻・解剖図・街道図等である。

『東北大学デジタルコレクション』

https://www.i-repository.net/il/meta_pub/G0000398tuldc

全体の画像を公開している資料は、現在次の通り。

【絵巻類】蒙古襲来繪詞 (伊 9-571)・雲井の秋 (伊 10-553)・鷹野繪巻 (伊 6-564)・驪黄物色圖 (伊 10-572)・檀林皇后廿七歳命

終九想之圖 (伊 10-586)

【解剖図】玄珮先生祕藏圖 (伊 11-556)・解體詳圖 (伊 5-375)・猿開剖圖 (伊 10-557)・解剖存眞圖 (伊 7-942)

【街道図類】東海道中繪巻 (伊 8-511)・房總常奥海岸繪圖 (伊 8-514)・陸奥州驛路圖 (伊 8-516)・花洛組見圖 (伊 11-503)・東海道分間繪圖 (伊 6-513)

【目録訂正一覧】

- 『楚南堂畫稿』(伊 6-565)：「楚南堂縮圖」(題簽) → 「楚南堂縮圖」(内表紙)
- 羣分品彙 (伊 7-377)：「寫本」の記述追加

(おおはら りえ, 東北大学学術資源研究公開センター助教, 附属図書館協力研究員)